



現場で活かしてこそその知識とスキル

氏名:	なかむら こうじ
SNS:	Facebook 一応あります
所属:	大和コンピューター
分野:	SI(基幹が多い)

■ 最近の思うところ

社会人になってから情報処理試験とか CMMI とか、会社に言わたり必要に迫られたりして勉強した。

でも、もっとうまく仕事をしたいとかスキル上げたいとか、自分の意志で勉強するようになったのはいづぶん経ってからだったなあと思う。

JSTQB とか SQuBOK とか、都合よく自分の磨きたい方面の制度や資料があったのは幸運だったなあ。

で、今どうよ？

まだまだ知らないことはたくさんあるけど、少なからず知識はついてきたんじゃないかな。

仕事はまえよりうまく回せるようになった？スキルはあがった？・・・びみょー。

いや、良くはなってると思うんですよ。

ただやはり現実問題として、しっかりテスト分析するとか、テスト技法を駆使してとか、実際の現場でしっかりと下準備をして仕事をするような余裕はあまりなかったりします。

やっぱりテストエンジニアの価値を上げるためには、専門的な知識やスキルを活かして周囲からもかっこよく見えるくらいじゃないとダメなんじゃないかなあ。

そこそこうまくやるけど「そんだけ資格もってるわりに、思ったほどすごくない」ってレベルだと、「すげー！」ってならないし、後に続く人もなかなかあられないよねえ。

と、いうわけでやっぱり生々しい現場で、きちんと知識とスキルを活かしてうまくやるしかないよね。工数がたりないとかメンバがいないとか、無いものねだりしても始まらないわけで、そんな現実の中で身につけた知識やスキルでいかに価値をはっきりしていくか・・・が最近の思うところです。

■ WACATE 実行委員として

そんなことを最近思っているのですが、WACATE の場ではできるだけ実体験を踏まえたセッションを提供していきたいなあと思っています。

一般的な知識や解釈は当然ですが「こんなプロジェクトの場合こうやったらどうなったよ」とか、そういう大々的には公開しにくい体験談の共有とかができるのも、WACATE の良いところだと思うのです。

と、いうわけで、話のネタ作りのためにも現場でいろいろチャレンジしちゃうぞー。